



この事業はサマージャンゴ宝くじの収益金を活用して実施しています。

東神楽130年記念事業

2023年9月22日発行

企画:東神楽町まちづくり推進課

協力:わらアートJAPAN

<https://warajp.com/>

撮影・編集:monogram.inc



東神楽130年記念事業
わらアート動画はこちら



東神楽130年記念事業

Higashikagura WARA ART

わらアートって？

「わらアート」は、稲わらや竹、木材を主な材料とした巨大なオブジェです。

2006年に新潟市の町おこしプロジェクトとして始まった「わらアート」制作は、新潟県の米どころという特徴を活かし、稲わらの新たな活用法として創案されました。

東神楽130年記念事業では、東神楽町のお

米を町内外へPRするとともに、制作を通して、わらの伝統技巧に触れながら、地域の方と一緒に楽しめる企画として、「わらアート」を制作することにしました。

町内の農家さんから譲り受けた稲わらを使い、町民や学生など、40人以上の方に関わっていただきながら、約3週間かけてクマと恐竜の2体を制作しました。

1



わらを200cm×90cmのシート状に編みます。今回は、約120枚を編みました。

2



木や竹などを使いオブジェの骨組みを作ります。

3



編んだわらのシートを骨組みに付けていきます。

4



全て貼り付けた後、毛並みを整えて完成！

ボランティア



いろいろな人との触れ合いや
お話がとても有意義でした！

大友さん 東神楽町出身

生まれ育ったこの町に恩返しがしたいと思いボランティアに参加しました。何度か参加しているうちに「わら編み」が上手になりました。いろんな方とお話できて有意義な時間でした。同じゼミの仲間も参加していて、さらに親交が深まった感じがします。参加して良かったなと思います。

木山さん 札幌市出身

わらは触ったこともなかったので、貴重な経験になりました。東神楽町は札幌の喧騒としている感じと違って、すごくのどかです。自然を感じるというか、住みやすそうだなという印象です。わらアートの制作期間だけでもこの辺りに引っ越そうかと思っただけです。



わらの編み方も覚えたい！
東神楽に住みたい！

原部さん 東神楽町出身



ものづくりが大好き！
教えてもらいながら
作る過程が楽しい！

みんなで一緒に作ろうという考えに賛同して参加しました。こうして学生や町の方たちと一つのモノづくりを通して交流できるっていいなと思いました。プロの人に教えてもらいながら作ったので完成度も高いです。もしこれからもわらアート制作が続くのであれば設計してみたいです。



宮島 慎吾 Shingo Miyajima
NPO 法人わらアートJAPAN 理事長

2006年に新潟市西蒲区の岩室温泉がある地区で「岩室の未来創生プロジェクト」という事業に携わっていました。その中で、新しいイベントがないかを思索していたところ、「札幌は『雪まつり』だから、新潟はコシヒカリの稲わらを活用した『藁まつり』がいいじゃないか」と提案したこ

とが「わらアート」誕生のきっかけです。巨大オブジェとして初めて制作した高さ5メートルの水鳥は、2か月間の展示で5万人以上の人が見に来ました。5万人ってアートの展示としては途轍もないことで、「わらアート」が西蒲区の特徴として毎年制作することになり、今年



MAP:Google

うだと感じていました。今回制作したのは、草食恐竜のステイラコサウルスです。あまり一般的な恐竜ではないのですが、角がたくさん生えているところが特徴的で、この特徴を生かして作ってみようかなと思いました。ポイントは、斜めに足が出ているところや首が曲がっているところで、動作を表現してみました。

で15年目を迎えました。

東神楽町とは、昨年からゼロカーボン推進のアドバイザーとして関わっていました。ちょうど130年記念ということもあって、町から何か地域の特徴を出すような仕掛けを施したいとお話をいただきました。東神楽町はお米の産地ですから、わらアートは向いているなと思い、今回提案させていただきました。

東神楽は子どもが多い町と聞きました。恐竜は大きくて迫力もあるし、子どもたちもきっと喜ぶだろうと。なにより、この広い公園に馴染みそ

町の印象としては、若々しいし、美しいし、清潔だし、素晴らしい地域だと思います。災害も少なく比較的天気も安定しているという話も聞きました。過ごしやすく、のんびりするにはいいなと思いました。景観にも配慮されていて、とにかく素晴らしいところです。





野口 正治 Masaharu Noguchi

NPO法人わらアートJAPAN 理事

クマを制作することに決まってから、どんなクマを作ろうかいろいろ悩みました。東神楽町にはヒグマが生息していると聞きましたが、リアルな四つ足の造形よりも座っている方がこの場所にマッチしていると考え、花に囲まれたかわいらしいクマをイメージして設計しました。

東神楽町のスローガンが「すてきな笑顔と花のまち」ですから、すてきな笑顔をクマにも求めました。口元が半開きで、藁のふくらみもあって、クマの表情にしては柔らかく、かわいらしくできました。出来栄は100点を付けていいんじゃないでしょうか。何より皆さんと一緒に作れたこと



MAP:Google

が良かったですね。

人によっては、クマに見えたり、犬に見えたり、いろいろな動物に見えるようです。それがまた、夫婦や親子の会話を弾ませていると嬉しいですね。じーっと見つめていると何か問いかけてくるようで愛着が湧いてくると思います。このクマが町のシンボルとして親しまれることを期待しています。制作中、通りがかりのたくさんの方に声をかけていただきました。東神楽小学校の男子も見に来ていて、名前を付けてもいいよと言ったら、「東神楽」と「クマ」を掛けて、「かぐま」



がいい!と言っていました。ネーミングすることがあれば、ぜひ候補にしてあげてください。

東神楽町は花のまちというだけあってとても美しいです。周囲には田んぼもあり、たくさんの緑と花に囲まれた優しい町だなという印象です。とにかく都会にはない大きな空と緑が広がっていますから、ゆったりできそうですね。若かったら一度住みたいなと思いました。

その中で、こうしたアート活動ができたことを嬉しく思いますし、ぜひこれをきっかけにいろいろなアートを活用したまちづくり活動を続けていってほしいですね。